

# 戦争を「内容」として

— 日本国内の大学（留学生対象）での実践報告 —

---

2012年8月19日 日本語教育国際大会  
パネル発表「大学の日本語教育の内容を問う」

長崎外国語大学 川崎加奈子

# 実践に至る背景&概要

・実践対象：長崎の大学の学部留学生

～「日本語専修」コースの日本語科目～

|     | 読む            | 書く              | 聞く      | 話す        |
|-----|---------------|-----------------|---------|-----------|
| 4年生 | 上級読解<br>Ⅲ & Ⅳ | 上級文章表現<br>Ⅲ & Ⅳ | 情報Ⅲ & Ⅳ | 上級総合Ⅲ & Ⅳ |
| 3年生 | 上級読解Ⅰ & Ⅱ     | 上級文章表現<br>Ⅰ & Ⅱ | 情報Ⅰ & Ⅱ | 上級総合Ⅰ & Ⅱ |
| 2年生 | 読解Ⅲ & Ⅳ       | 文章表現Ⅲ & Ⅳ       | 聴解Ⅲ & Ⅳ | 口頭表現Ⅲ & Ⅳ |
| 1年生 | 読解Ⅰ & Ⅱ       | 文章表現Ⅰ & Ⅱ       | 聴解Ⅰ & Ⅱ | 口頭表現Ⅰ & Ⅱ |

# 実践に至る背景 & 概要

- 3年生の日本語力：  
初級文法不完全～N1
- クラス編成：（A・B・C）  
プレイスメントテストによって3クラス
- 問題点：学生の発話が引き出せない
  - yes/no questionのみへの返答
  - 感想や意見は・・・「ない」
  - 宿題は何かの丸写し

表現する  
モチベーションの  
欠落？

# 実践に至る背景 & 概要

学生が話したくなる授業を作るには???

近藤の実践との出会い

2010年後期～

2科目を合同授業に  
週2コマで同一の課題を扱う

# 実践に至る背景&概要

・実践対象：長崎の大学の学部留学生

～「日本語専修」コースの日本語科目～

|     | 読む            | 書く              | 聞く      | 話す        |
|-----|---------------|-----------------|---------|-----------|
| 4年生 | 上級読解<br>Ⅲ & Ⅳ | 上級文章表現<br>Ⅲ & Ⅳ | 情報Ⅲ & Ⅳ | 上級総合Ⅲ & Ⅳ |
| 3年生 | 上級読解Ⅰ & Ⅱ     | 上級文章表現<br>Ⅰ & Ⅱ | 情報Ⅰ & Ⅱ | 上級総合Ⅰ & Ⅱ |
| 2年生 | 読解Ⅲ & Ⅳ       | 文章表現Ⅲ & Ⅳ       | 聴解Ⅲ & Ⅳ | 口頭表現Ⅲ & Ⅳ |
| 1年生 | 読解Ⅰ & Ⅱ       | 文章表現Ⅰ & Ⅱ       | 聴解Ⅰ & Ⅱ | 口頭表現Ⅰ & Ⅱ |

# 実践の詳細

## 学生数

単位（人）

|      | 中国 | 韓国 | アメリカ | 計  |
|------|----|----|------|----|
| Aクラス | 22 |    |      | 22 |
| Bクラス | 20 | 3  | 1    | 24 |
| Cクラス | 23 |    |      | 23 |
| 総計   |    |    |      | 69 |

※クラス分けはプレイスメントテストによる

# 実践の詳細

|                | 「情報日本語」 (近藤担当)   | 「上級総合日本語」 (川崎担当)  |
|----------------|--|---|
| 到達目標<br>※2科目共通 | 入手した情報について分析し、自分の経験や意見を交え的確にかつ場に則した態度で述べる練習をすることにより、 <b>自発的な発話力を伸ばす</b> 。また、日本事情への見識を深める。<br>当期のテーマ「留学生の目から見た長崎～思いを伝える～」 |   |
| 評価方法           | 初回の授業で学生が決定する<br>クラスによって異なる<br>例)<br>グループ発表30%<br>(学生15%、教師15%)<br>課題への取組み姿勢30%<br>(学生30%)<br>期末課題40%<br>(自己評価20%、教師20%) | 出席&活動への参加度 50%<br>オリジナリティー 50%<br>(教師による絶対評価)<br>※日本語力は問わない |

# 実践の詳細

- 活動はすべてグループで行う
- 3つの課題
  - ①長崎の代表的な祭りの見学～発表
  - ②100人へのインタビュー～発表
  - ③戦争体験者インタビュー～発表（本実践）
    - ※デリケートな問題 → 意見を引き出す
    - ※自分の住む地域を知る
- ③にかかる時間：  
2科目×15週（一学期 計30コマ）のうち、  
20～29コマ目、計10コマ



# 実践の詳細 ～授業の流れ～

## 《第1コマ》

自国・日本の関係についての  
ブレインストーミング

## 《宿題》

振り返りシートの記入

課題： 「戦争体験者を探して体験談をまとめる」

- ・ **一人ひとり別々**の戦争体験者にインタビューする
- ・ 戦争体験者は学生が**自分で探す**
- ・ 教師はインタビュー対象探しに協力しない

## 《第3コマ》

**課題**についての説明・  
グループ打ち合わせ

## 《第4～8コマ》

グループ活動  
(情報整理、原稿・PPT作成)

# 「振り返りシート」の質問項目

- ①活動の中で一番うれしかったこと
- ②        "        一番大変だったこと
- ③戦争体験者をどのように探したか
- ④自分が学んだと感じること
- ⑤日本や戦争に対するイメージの変化
- ⑥この授業の良かった点、悪かった点
- ⑦日本語力の伸びの自覚
- ⑧日本語力以外の成長の自覚

# 学生の振り返りから見る“困難”

## (1) 戦争体験者を探すこと

⇒ 解決

A1) 戦争体験者の探した過程が一番大変だった。できると思ったところに、結果的にだめだったということが何回も繰り返したから、心が疲れた。

B2) 75歳以上で今は生きている、話すできる、そしてインタビューできる。これはほんとうにむずかしいこと。

C3) インタビューする前に本当に体験者を探せますか、一体どすれば探せますか、とても心配しました

# 学生の振り返りから見る“困難”

## (2) 話題への不安

B4) 戦争の時、中国と日本の関係はかたきです。そのため中国人は日本の戦争体験者と話すのが大変だと思います。

C5) インタビューの内容は戦争体験者に対してあまり思い出したくないでした。そして、戦争体験者を探すときの気持ちは大変でした。

# 学生の振り返りから見る “困難”

## (2) 話題への不安

→ 問題解決のための行動へ

A6) 戦争の話は日中両国の人にとって微妙な話題だと思います。心を打ち明けて仲良く話すのは無理だと思いましたので、インタビューに行く前に歴史書をちゃんと予習して、日本語に訳して、もし中国を侵略したことを認められなかったら、説明と、きまづくなるかもの覚悟した

B7) (前略) 体験者と詳しく話したり辛いことを聞くことがたいへんだった。体験者自分もその戦争時代のことをあまり知らない人に言いたくないから、私が聞くこともしんちょうにしました。

# 学生の振り返りから見る“困難”

## (2) 話題への不安

→ 観察と思考へ

C8) 戦争体験者に問題を出す時。非常に心配しています。その問題を聞いて大丈夫かな、相手の気持ちどうでした、自分の日本語は大丈夫、失礼のところがあるかなあ、非常に不安。そして、私の問題を答えましたあと、私はどうな表情、何が言ってほがいい？

# 学生の振り返りから見る“困難”

## (3)インタビュー時の日本語

→ 上達の実感

B9) インタビューをする時、相手が老人なので話が聞きにくい。日本に来るのはただ4カ月なので聴力があまりじょうずではない。それに年上の人の話はもともと聞きにくい。

C10) インタビューのとき、老人の話は少々むずかしいである

# 学生の振り返りから見る“困難”

## (4)グループ活動時の意見の相違

→ **情報の取捨選択、多面的な考え方**

A11) 人インタビューした内容で発表内容の選択することと、3人の内容は発表時のつなぎ合わせることは一番大変だった。

A12) グループメンバーと情報交換という形式で同じ問題は人によって答えが違ったから、**多方面に見ると考えるという能力が身につける**



# 学生の振り返りから見る“困難”

## インタビュー

- ・ 相手を探す
- ・ 話題を持ち出す
- ・ 相手の日本語を聞き取る

## グループ活動

- ・ 情報交換の言葉
- ・ 意見の相違と情報の取捨選択
- ・ 教師に伝える
- ・ 原稿&PPT作成

## 発表

- ・ 緊張

- ・ **ABクラス合同発表**
- ・ **他教師の見学**
- ・ **時間制限**

《情報量》  
学生 > 教師

振り返りシート  
& レポート

# 学生が得たもの

## (1) 戦争の知識、イメージの変化

- A 13) 実は被爆者をインタビューする前にはアメリカが原子爆弾を投下したおかげで世界は平和に戻ったとずっと思っていますが、悲惨な体験を聞いた後、心は痛みを覚え、ひどく矛盾しています。
- B 14) 原爆が何かも知らない私が被爆者を会ってそのときの生活とか説明を聞かせてくれて、今からの自分の考え方もかわって自分の自信を持つ機会になった。
- C 15) 戦争に対するイメージは変わりました。戦争は正義のためにとというのはウソだ。人民に苦しい感じをくれたただけだと思う

詳しくご紹介できません

# 学生が得たもの

## (2)日本や長崎についての理解

A16) 日本の生活様式をもっとわかる

A17) 日本の文化や国民の考え方など深く理解してきた  
と思います

C18) 学んだことは、長崎の文化、歴史について

# 学生が得たもの

## (3) 観察、思考能力①

A19) このような活動をして発表するのは、すべては自分を理解して上にする事です。ですから、**自分の意見、感想、ものやことに対する見方は必要がわかってきました**。前はあまりきにしないですから、この授業を受けると考え方が成長しました。

B20) 情報を整理したり**いろいろかんがえている**。

C21) 自分で聞いて、インターネットで探して、自分の意見を持って、他の人の意見も聞いて、客観的な理解の能力

# 学生が得たもの

## (4)交流・コミュニケーション能力

A22) 人と話しかけ、しゃべりたくなりました。  
た。

B23) 特別会話の能力がちょっとあがっている

B24) 日本語で日本人と交流する能力。日本語が下手なのに言いたいことが話す。

C25) 質問を聞いた後すぐ答えられます

C26) 日本人と話す時自然になった

# 学生が得たもの

(4)交流・コミュニケーション能力 → 自信

B27) みんなの前で怖がらなくて自分が言いたいことを言えるようになった。今は**自信**があります。

C28) 話すことができます。**自分を信じていく**に変わった。

# 学生が得たもの

## (5)交流 → 地域（日本・長崎）とのつながり

A29) 日本語で他の人と話すことはなんとか不思議だと感じます。

C30) 授業を受ける前、あんまり日本人と話さないから日本人に対してちょっと怖さを持っている。

A31) お宅へ行きました。これが私始めて伝統的な日本の家に行ったのです。

C32) こういう活動を通して日本人と付き合うチャンスがあるから、日本語を使うチャンスもある。

# 学生が得たもの

## (6)達成感

B33) どんな難しいことを会って、もし勇気を出して成功することができる。

C34) 断る時、やりたくない時、堅持しなければなりません。そうしないと、きっと失敗になります。そうすれば成功かどうかわからないけど、全力で頑張りました。後悔がなかった。

C35) この前考えだけ無理だと思われたこと、意外にもやりました。



# 学生を動かしたものの

この授業では  
自分の居場所がある

意味があると思  
った授業なら  
まじめに

もっとインタビューしたい

大学の行事と違う。  
これは私のインタビュー、  
私の発表だから  
一生懸命やれます



# “困難”から見える学生の伸び ～まとめとして～

自分の課題  
⇒ 自律的な学習

他者との学び合い

グループ活動

・緊張

インタビュー

- ・ 相手を探
- ・ 話題を持
- ・ 相手の日本語を聞き取る

批判的・客観的思考

の言葉  
違と  
選択

地域とのつながり

- ・ 教師に伝える
- ・ 原稿&PPT作成

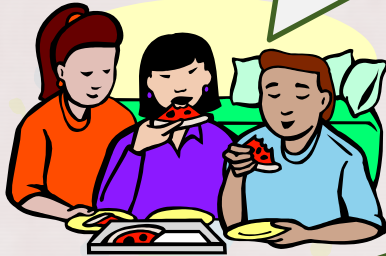
振り返りシート  
&レポート

問題発見  
問題解決

思考の表現

# 日本語力の伸び

伸びました！



書いたものに同じ表現がない  
思いが伝わる



語学面としても大きな伸び

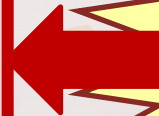
日本語の習得も  
気になる

知識注入の  
授業



思考面&言語面どちらも  
成長を実感

考えること自体を  
目的とする授業



～最後に、学生の振り返りから～

Q：どんな日本語力が伸びたと感じますか？

A36：日本語を話せる能力と日本人との交流することの能力。自分がしなければならぬ活動によって伸びた。

～参考～

- ・近藤有美「学習者の能動的参加を目指した上級読解授業の試み」(2006)『日本語教育研究』第51号、言語文化研究所
- ・近藤有美「メディア・リテラシー要素を取り入れた日本語教育の実践-日韓報道を比較して韓国人大学生は何を見つけたか-」(2009)日本語教育学会秋季大会口頭発表
- ・近藤有美「メディア・リテラシー育成をめざした日本語授業-インターネット上の映像を利用して-」(2010)日本語教育学会第2回研究集会口頭発表
- ・近藤有美「メディア・リテラシー育成を目指した日本語授業-Youtube映像を利用して」、『長崎外大論叢』第14号、51-60、2010
- ・近藤有美「メディアを利用した実践-従来型の授業と比較して学びの質はどうか変化したか-」(2010)九州日本語教育連絡協議会研修会
- ・近藤有美・川崎加奈子「本物の発信者を目指した活動型授業の実践」(2011)日本語教育学会春季大会、口頭発表
- ・「短歌で学ぶ日本語-韓国人大学生、韓国を中心に愛を叫ぶ-」(2011)日本語教育学会研究集会第1回、口頭発表
- ・川崎加奈子・近藤有美「活動型授業における教師の介入-内容重視の教育でいかに言語指導を行うか-」、2012年度日本語教育学会九州沖縄研究集会、ラウンドテーブル

ご清聴ありがとうございました

kawasaki@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp